

## 第22回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	女性と防災の会
開催日	令和3年2月6日(土)
テーマ	わが家の災害別避難のあり方 〈副題〉感染リスクから命を守る分散避難を考えよう
形式	CATV生中継によるワークショップと講話
講師等	松山市保健所保健予防課 保健師 渡部 恵子さん 松山市総合政策部防災・危機管理課 保健師 玉井 崇仁さん
<p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の中、これまでの避難のやりかたが見直され、国は分散避難を呼びかけている。そこで私たちは、参加者自身の自宅周辺の危険を洗い出し、災害別にどう行動に移せばよいかを具体的に考えることが必要だと考えた。そのため、市町から配布されているような手軽に入手できる防災マップ(今回は松山市から災害別に出ている防災マップ)と私たちの作成した「自宅周辺の危険を探るためのシート」を活用して、自宅周辺にはどんな災害が起こりそうか、危険箇所はないかを知る方法について説明した。</li> <li>・その後、コロナ禍の避難行動という視点から二名の保健師さんに講話していただいた。</li> <li>・渡部さんは「災害時の避難先での生活」について、「平常時に気をつけていることを災害時には特に注意深く意識をして行うことが大切、心のケアや防犯の視点を持って、声を掛け合い、みんなで考えることがとても重要。感染症は発生させない、予防が肝心」ということを。玉井さんは「新型コロナウイルス感染症と災害時の心得」について、「感染症対策により、避難の形が大きく変わったこと。新型コロナウイルス感染症について正しく知ることが現在の生活でも、災害時でも感染症の予防対策につながるということ」など、お二人はそれぞれ具体的に話してくださった。</li> </ul>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

## 〈まとめ〉

- ・保健師さんの講話内容を事前にいただいたことでワークショップの解説からの流れがまとまり、「わかりやすかった」という感想につながったかと思う。
- ・ワークショップで使用するシートの作成には、会の中で何度も話し合い、時間をかけて仕上げたこと自体が会全体の学びの良い機会になった。
- ・CATVに変更が決まってからの作り直しに時間がかかり大変だったが、一方向で伝えるむずかしさや画面の作り方などを考える良い機会となった。
- ・分散避難について、自宅周辺の危険を知ることのステップを、災害別防災マップを駆使して具象化することで避難行動がより具体的にイメージできたのではないかと思う。ただ、中継でワークショップを解説するという初めての試みにとまどった。そのため、分科会前夜までパワーポイントの作成（練り直し）に追われた。
- ・今後も、参加者自身が「自分ごととしてとらえる」「考える」内容にこだわって活動していきたい。

